

平成26年11月定例議会が11月25日に開会され、市長と教育長が行政報告を行いました。このページからは、その要旨を紹介いたします。なお全文は市ホームページで紹介しています。

### はじめに

11月1日、瀬戸内市誕生10周年記念式典を開催したところ、多くの人に出席していただき、ありがとうございます。また、これまで瀬戸内市の発展のためにお力添えをいただきました全ての皆さんに、改めて感謝を申し上げます。

これまでの10年を一区切りとし、今私たちの眼の前には、「次なる挑戦への10年」が待ち受けています。

平成27年度から、合併の特例措置として増額交付されている地方交付税が削減され、財政状況はますます厳しくなりますが、財政健全化と併せて、「人と自然が織りなすしあわせ実感都市 瀬戸内」を目指して、子どもたちが誇

りを持てるまちづくり、人づくりをしていきます。

将来に向けた投資となる積極的な取り組みを進めるため、国が進めている「まち・ひと・しごと創生総合戦略」による新たな交付金事業に対応できるよう、市長特別枠として「100年先へ人の輪がつながるまち」をテーマに瀬戸内市としての地域活性化、人口減少対策のための新たな事業に取り組んでいきたいと



瀬戸内市誕生10周年記念式典

考えています。

錦海塩田跡地のメガソーラー事業や、図書館の建設など新たな取り組みが始まりつつある今、瀬戸内市誕生10周年を新たな飛躍の年としていきます。

### 錦海塩田跡地活用事業の進捗状況

10月以降、堤防補強など安全・安心対策のための工事が本格的に進められています。これに合わせ、住民を対象に工事説明会を平成25年7月、平成26年2月に続き10月28日から30日にかけて開催し、延べ57人の参加があり、実施事業者が工事計画、安全対策について詳細な説明を行いました。

また、11月7日には工事の本格化に当たり、実施事業者



牛窓オーリーブ園から望む錦海塩田跡地

の主催による起工式が開催されました。

引き続き、市では、市民の皆さんの一層の理解を得ながら、事業が安全かつ着実に進展するよう、事業者に助言や指示を行い、円滑な事業実施を図ります。

併せて、市の魅力や認知度の向上を図るため、跡地活用の取り組みを「太陽のまちプロジェクト」として掲げ、安全・安心の確保と地域活性化

を図る跡地活用の事業効果が、有効かつ長期にわたり発揮されるよう取り組んでいきます。

### 地方交付税の削減と中期財政計画

平成27年度からの地方交付税の段階的な削減は、合併前の旧市町村ごとに支所があると仮定した配分額の見直しがあるものの、平成32年度においては、本年度と比較して約8億円の減額となる見込みです。

一方で少子高齢化の進展による社会保障費の増加、新火葬場建設、公共交通、マイ



老朽化が進む瀬戸内市営火葬場

ナンバー制度への取り組みなど、社会情勢や新たな住民ニーズに対応するための経費が増加するため、今後公共施設の再編や民間委託の推進、受益者負担の見直しなど積極的に財政健全化の取り組みを進めていく必要があります。

本年度の中期財政計画では、財政健全化の取り組みを盛り込んだ結果として、平成35年度において、経常収支比率100割未満、実質公債費比率18割未満、財政調整基金と減債基金の合計額約30億円を確保することができました。

### ごみの減量とリサイクル

平成26年4月から10月までの7カ月間のごみの減量状況について「燃やすごみ」の減量は、4月が14・5割、5月が13・7割、6月が14・2割、7月が12・5割、8月が12・3割、9月が11・5割、直近の10月末時点では11・7割でした。

また、「燃やすごみ」の処

理量については、7カ月の合計が約5,410・4トで、前年同期と比べて約262・1ト(4・6割)の減量となっております。また、「古紙」については、7カ月の回収量の合計が約222・3トで、月平均約31・8トとなり、前年同期と比べて約34・5ト(18・4割)の増量。「ペットボトル」については、回収量合計が約31・4トで、月平均約4・5トとなり、前年同期と比べて13ト(70・7割)の増量。また、4月から新たに追加した「その他プラスチック」については、回収量合計が約99・5トで、月平均約14・2トとなっており、それぞれの品目でリサイクル化が進んでいる状況です。

### 観光振興の取り組み

NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の影響は大きく、備前福岡への入り込み客数は、今年1月の放送開始から9月末まで、既に2万人を大きく上回っています。テレビ放映は年末で終了しますが、12月14日には、福岡市で官兵衛ゆかりの5都市が集まり黒田サミットが開催され、瀬戸内市も参加する予定です。今後、市では福岡地区の連

今後、新たな品目のリサイクル化やリデュース(発生



平成24年に瀬戸内市で行われた黒田サミット

### 用語の解説・備考

**まち・ひと・しごと創生**  
「まち(国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営める地域社会の形成)」「ひと(地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保)」「しごと(地域における魅力ある多様な就業の機会の創出)」を一体的に推進すること。

### 太陽のまちプロジェクト

温暖な瀬戸内海地域の太陽の恵みと、広大な塩田跡地という瀬戸内市の地域資源を生かした太陽光発電事業の実施による「地域の安全・安心の継続的な確保と提供」「跡地活用の貸付料収入を財源として、課題解決を図り、また、豊かな自然環境など市の持つ魅力(地域資源)を生かし発展

させ、将来につながる取り組みを進め、活気があり、安心して暮らせるまちづくりを進めるプロジェクト。

### マイナンバー制度

社会保障・税番号制度。複数の機関に存在する個人の情報が同一人の情報であるということの確認を行うための基盤であり、社会保障・税制度の効率性・透明性を高め、国民にとって利便性の高い公平・公正な社会を実現するための社会基盤。

### 本年度の中期財政計画

平成26年度から10年間の普通会計の推計である「中期財政見通し」、この見通しを受けて平成26年度以降に取り組む具体的な方策を盛り込んだ「財政運営適正化計画」、この計画の10年間のおおよその効果額などをまとめたもの。

### リデュース(発生抑制)

生産時の天然資源の投入量抑制や過剰な消費・使用の回避など廃棄物の発生自体を抑制すること。

合町内会、史跡保存会、ボランティアガイドなどの皆さんがこれまで築いてきた「あたたかいおもてなし」を市内全域に広めるとともに、平成28年春に岡山県とJRRや観光業者等が協働で実施する「アステイネーションキャンペーン」において、全国の旅行者やメディアへ瀬戸内市の魅力をPRし、誘客数の増加に結び付けていきたいと考えています。



地場もん国民大賞表彰式

### 6次産業化を推進

瀬戸内市では農林水産物を生産して販売するだけでなく、加工し付加価値を付けて販売する6次産業化を推進しています。

11月1日に、東京都千代田区丸の内で開催されたジャパンプードフェスタ「地場もん国民大賞」において、全国から応募された880品目の中から、市の進めている瀬戸内市発ブランド「Setouchi Kirei(セトウチキレイ)」の認定商品「牡蠣のアヒージョ」

がグランプリである金賞を受賞しました。

また、この時期に収穫されるレモンも現在、市内のメーカーによりサブレに加工されていますが、今後は市外のメーカーや全農岡山と協力して加工品の生産を進めていきたいと考えています。

さらに、9月28日に東京都港区新橋に「とっとり・おokayama新橋館 ももてなし」が開館しました。ここでは、鳥取県や岡山県の産品が販売されており、瀬戸内市に関しては、カキやママカリなどの「Setouchi Kirei(セトウチキレイ)」に認定した商品などの販売が好調です。今後

とも瀬戸内市の6次産業化された商品がいろいろな人を選ばれるよう施策を進めていきたいと考えています。

### 新病院建設本体内工事入札不調の原因

新病院建設本体内工事に係る入札は、7月30日に公告し、9月3日に実施しましたが、誠に残念ながら不調となりました。

不調となった原因について調査、分析をし、再積算を実施したところ、昨年の設計積算の時期から直近の再積算までに資材や人件費を含む建設物価が予想以上に上昇したことが直接的な原因であることが判明しました。

入札不調で開院時期が遅れることについて、一日も早い開院を待ち望む市民や患者の皆さんに、心からお詫びを申し上げます。

新病院建設が、一日も早く実現できるよう、運営計画や病床区分の見直し、再入札に向けての本体工事と外構工

事、医療機器などの購入について再検討します。

### 新図書館整備について

新図書館整備については、現在、設計変更を終え、再入札に向けての手続きを進めているところであり、順調にいは、平成27年1月着工、同年12月末頃に竣工し、開館準備作業の後、平成28年度できるだけ早い時期に開館する予定です。

また、市立図書館では、10月1日から、市内の高齢者施設のうち希望のあった23事業所に、移動図書館の巡回サービスを月1回実施しています。高齢者にも読みやすい大きな活字の本や録音されたCD図書、画集や写真集などさまざまな本を届けるほか、図書館司書が、昔話の絵本や紙芝居などを読む「おはなし会」なども行っています。

高齢者からは、具体的な本のリクエストもあり、巡回サービスへの期待を実感しています。

アヒージョ

ニンニクを入れたオリブ油に魚介や野菜などの具材を加えて煮込んだスペインの小皿料理。

とっとり・おokayama新橋館ももてなし

岡山県と鳥取県が、特産品の販売、観光・移住の案内、企業の販路開拓支援などを行うアンテナショップ。「ももてなし」とは、岡山県と鳥取県のイメージを「もも」と「なし」を重ね、手に手をとって来場者を「も(お)もてなし」するという想いを表現したものの。

## 瀬戸内発見伝

### 巻之百十二

岡山県重要文化財(工芸)に指定されている餘慶寺の梵鐘

## 大分県からやつて来た!? 餘慶寺梵鐘

餘慶寺(邑久町北島)の梵鐘は、岡山県重要文化財(工芸)に指定されている文化財ですが、現在も毎日夕方(日没前)、また除夜の鐘としても突かれています。

この鐘には文字が刻まれています。それによると、もともとこの鐘は、戦国時代の元龜2(1571)年に「豊後国大分郡府中」(大分市)の「今小路」にある「惣道場」に寄進(寺院や神社に金品を寄付すること)されました。

豊後国の府中といえば、当時キリシタン大名といわれた大友氏の本拠地でした。寄進先の「惣道場」は、以前はキリシタン大名大友氏の城下町

にあるということで、キリスト教の教会であろうと考えられていましたが、近年の研究では、浄土真宗寺院、または小規模な真宗門徒の集會場のことを指すのではないかとされています。

### 寄進したのは中国人!

鐘を寄進したのは明人(当時の中国人)2人でした。1人は「台州府」の「廬高」、もう1人は「平羊縣」の「陽愛有」です。「台州府」は中国浙江省の台州市、「平羊縣」は平陽県とみられます。

この2人がどういう人物なのか、何の目的で鐘を寄進したのか、詳しいことは分かつ

ていません。ただ、府中の今小路辺りは商業地域だったようので、惣道場に入りする人は商人が多かったのではないかと考えられます。当時の府中は、中国・朝鮮や東南アジアなど、外国との貿易が盛んな貿易都市となっていました。

### もしかしたら、貿易

易に関わる明人が、商人の集まる惣道場に鐘を寄進して、結びつきを強くしようとしたのかもしれない。

それにしても、豊後の府中に寄進されたはずの鐘が、なぜ餘慶寺にあるのでしょうか。これにはっきりしたことには分かっていませんが、豊臣秀吉が天下統一の過程で九州に攻め入ったとき、宇喜多秀家軍が豊後に進行しているこ



とから、宇喜多軍が戦勝の記念に持ち帰り、餘慶寺に奉納したものであると伝わっています。

### 400年ぶりの里帰り

こうした九州ゆかりの文化財ということで、今春に九州国立博物館で展示されることになりました。戦国時代の終わりごろに餘慶寺にもたらさ

れたとしたら、およそ400年ぶりの里帰りということになります。

平成27年1月26日には、展示に向けた準備のため、餘慶寺から梵鐘を運び出す作業が行われ、その様子は公開されます。

### 【参考文献】

『邑久町史文化財編』、『備前上寺山―歴史と文化財―』